

令和3年度学力向上推進計画

「書く力」「読む力・読み取る力」の育成を軸とする学力向上の取組

亀山市立亀山西小学校

I めざす子ども像

亀山市の重点項目に関わることは、★印をつけて下さい。

- ・確かな学力・豊かな学力を身につけ、自ら学び続ける子
- ・人権を大切にし、仲間と共により良く生活する子
- ・心もからだも健やかで、命を大切にする子
- ・自らの健康を保持増進し、安全な生活をつくり出そうとする子

II 子どもたちの学力や学習・生活の状況等

<学力に関して>

- ・何が書かれているかといった内容の理解や、文章の構成を捉えて読むことに課題がある。
- ・目的や意図に応じた文章を書くことに課題がある。また、文章の組み立てを考え、論理的に書くことが苦手である。
- ・基礎的な計算の仕方はわかっているが、乗法や除法の意味が十分理解できていない。小数の計算、四則が混ざった計算の順については、定着に課題が見られる。
- ・図形、測定の領域では、基礎的な内容、用語の定着が十分でないものもある。(分度器で角の大きさをよむ、図を見て平行四辺形を答える)
- ・いくつかの資料や文章を読んで解答する複合的な問題が苦手である。特に、グラフの読み取りに関する課題が大きい。

<学習・生活の状況に関して>

- ・落ち着いて学校生活を送れている。学習規律を守り、真面目に授業に取り組もうとする意識がある。児童アンケートでは、6割の児童が「授業がわかる」、4割の児童が「ほぼわかる」と回答している。
- ・家庭学習は習慣化されているが、家庭での学習時間は短い。自ら進んで予習、復習する習慣の定着には至っていない。テレビやゲーム、インターネットの動画などメディアとの付き合い方についてルールづくりができていない家庭もある。

III 指導改善のための計画（ポイント）

<学力に関して>

- ・めあての提示、ふり返り活動（書くこと）を重点としたわかる授業づくりに取り組む。
- ・学びの定着に向けた検証と学び直しの実践を行う。
- ・効果的な補充学習を実施する。

<学習・生活の状況に関して>

- ・落ち着いて学習に集中できる学級づくりを行う。
- ・学習規律、学習・生活の約束を徹底し、規範意識を身につける。
- ・基本的な生活習慣、家庭学習の習慣化のため家庭への啓発を行う。
- ・家庭学習、自主学習の定着を図る。

IV 具体的な取組

<確かな学力を身につける授業の改善>

- ◆ 子どもたちが「できた」「わかった」と思える授業づくりを行う。
 - ・子どもの意欲づけ、目的意識を大切にした単元構成・指導を工夫する。
 - ・「何を学ぶか」が明確なめあてを提示する。
- ★・ふり返りの時間を確保し、学習内容の定着、子どもの学ぶ意欲向上につなげる。また、子どものつまずきを把握し、授業改善に活かす。
 - ・年間を見通し、多くの子がつまずく単元、難易度の高い単元に重点を置いた指導を行う。
- ◆子どもの定着度を確かめ、指導に活かす。
 - ★・教科書の問題に加え、「東書問題データベース」「学 Viva セット」を活用し、子どもが理解しているかどうかを確認し、できないことに対する支援、指導を継続して行う。
 - ・全国学力学習状況調査の結果から、記述問題や正答率が低い問題の誤答を職員向けのたよりにまとめ、授業でどのような指導が必要なのかを全体で共有する。

<指導力を高める研修の推進>

- ・「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善について研修会を行う。
- ・OJT 研修や学年会などを中心に、指導上で困っていることや悩みなどを聞く機会を多く持つようにし、個々の指導力向上につなげる。

<家庭・地域との連携の強化>

- ・家庭学習や自主学習について、共通理解を図り、家庭学習の習慣化を図るため、家庭学習の手引きを保護者配布するとともに、通信等で情報の発信を行う。
- ・補充学習や授業で、学習支援ボランティア、ゲストティチャーを活用した補充学習や授業を行う。
- ・幼稚園や保育園、中学校との交流、地域との連携を行う。

<組織的に取り組む学校体制の確立>

- ◆基礎学力の定着に結びつく家庭学習や自主学習の取り組み方について検討し、実践する。
 - ★・家庭学習で、「音読、計算、漢字」の3つを全校でそろえて出す。あわせて、週末の課題として、つまずきが大きい内容や次の単元のレディネスとなる内容を出す。
 - ★・学年に応じて、日記、条件作文、感想文、紹介文、意見文など「書く」課題を入れる。
 - ・高学年では、自分の理解度に合わせ自ら学習内容を選んだり、見通しをもって学習したりする力がつくよう、課題の出し方を工夫する。
- ◆ 補充学習（パワーアップタイム）や学習会において、個に応じた指導を行う。
 - ・タブレットを活用した個別最適な学びを進める。自動丸つけ機能を活かして、つまずいている児童への指導を充実させる。理解・指導が十分な児童には、難易度の高い問題に取り組ませ、より力を伸ばすようにする。
- ◆ 落ち着いて、安心して学べる学級づくりを行う。
 - ・「学習規律」「学習のやくそく」を確認し、全校で実践する。学期はじめに確認する機会を持つ。
 - ・「心にとめる子」を中心にした学級づくりを行う。
- ◆ 取組の進捗状況を把握する機会を設定し、よい取組は全体へ広げる。
 - ・自主学習の評価の仕方やふり返りに何を書かせるのかなど、研修会等で取組を紹介し、全体へ広げる。
- ◆ 算数科デジタル教科書を使った効果的な学びを進める。
 - ・基本的な使い方の研修会をもち、教職員が授業で効果的に使えるようにする。
 - ・使うと学びに効果的な単元や、効果的な使い方を交流する機会をもつ。